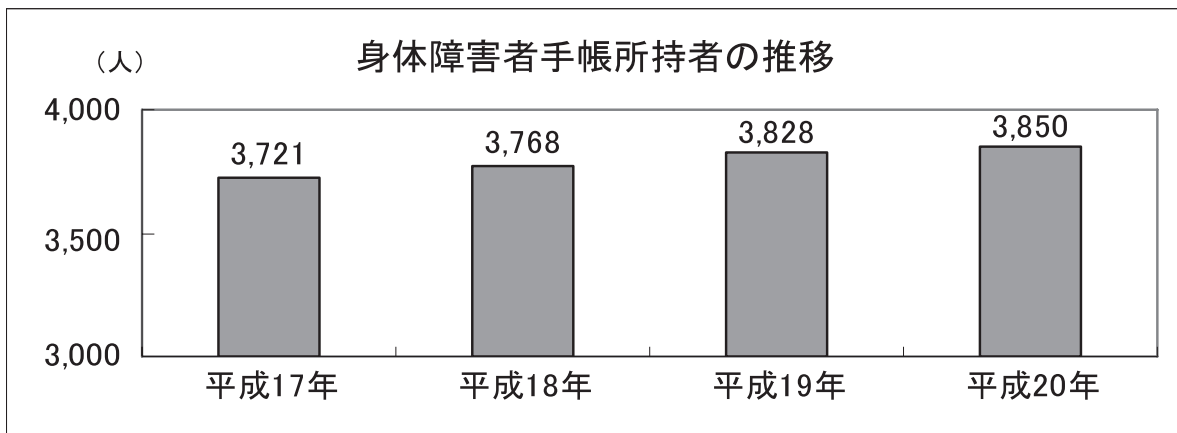


## 4 障がい者の現況

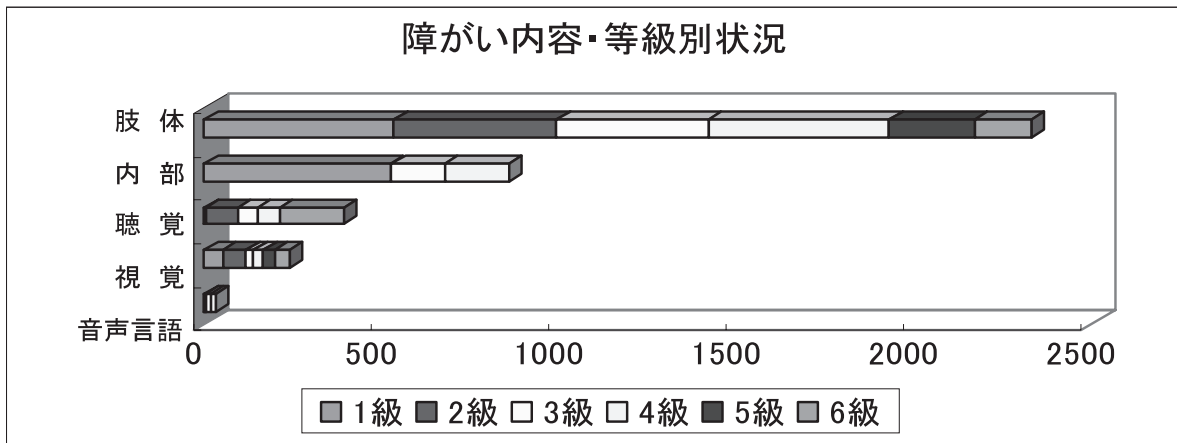
### (1) 身体障がい者の推移

身体障がい者は、平成20年3月31日現在で3,850人となっており、平成17年から平成20年までの3年間で3.5%増加しています。

また、障がい別の内訳は、肢体不自由者の2,329人が最も多く、内部障がい者が856人、聴覚障がい者が392人、視覚障がい者が242人、音声言語障がい者が31人となっています。今後、高齢化に伴い高齢の身体障がい者が増えていくことが予想されます。



資料：市福祉課 各年3月31日現在

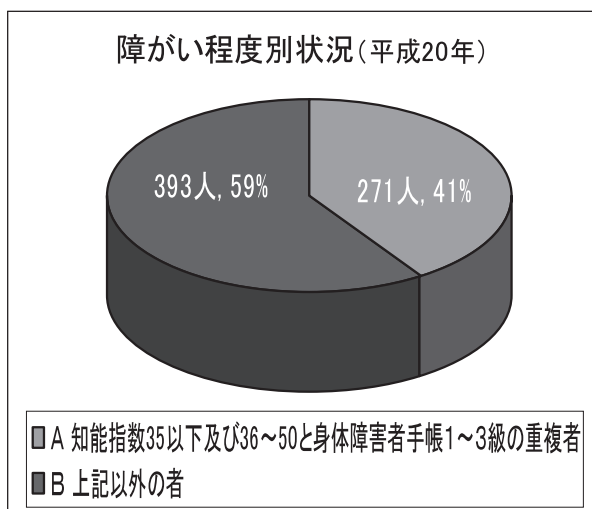
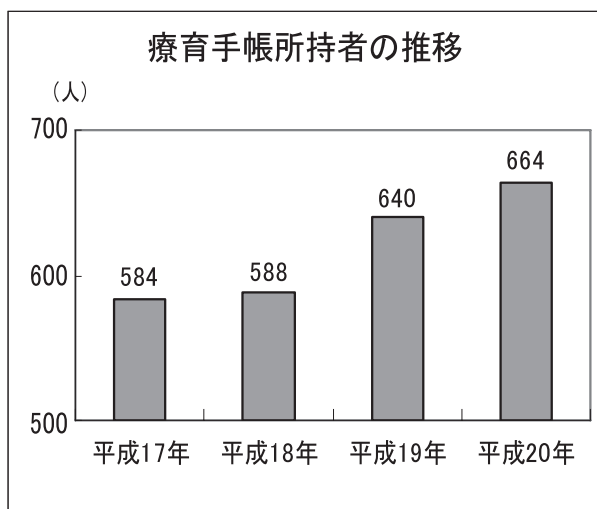


等級	肢体	内部	聴覚	視覚	音声言語	合計
1	535	525	4	53		1,117
2	458	4	91	66	2	621
3	425	147	56	20	16	664
4	512	180	63	28	13	796
5	242			31		273
6	157		178	44		379
合計	2,329	856	392	242	31	3,850

## (2) 知的障がい者の推移

知的障がい者は、平成20年3月31日現在で664人となっており、平成17年から平成20年までの3年間で13.7%増加しています。

また、障がい程度の内訳は、「A」が271人、「B」が393人となっています。(平成20年)

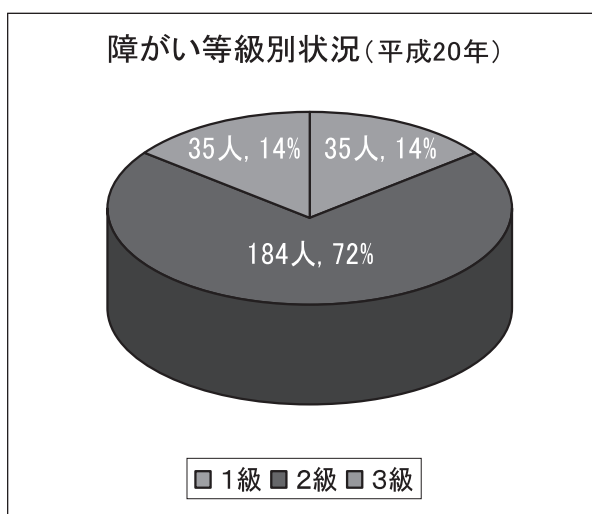
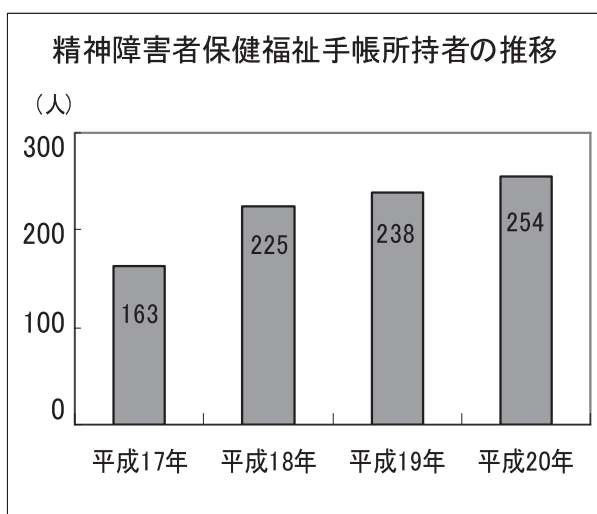


資料：市福祉課 各年3月31日現在

## (3) 精神障がい者の推移

精神障がい者は、平成20年3月31日現在で254人となっており、平成17年から平成20年までの3年間で55.8%増加しています。

また、障がい程度の内訳は、「1級」が35人、「2級」が184人、「3級」が35人となっています。(平成20年)



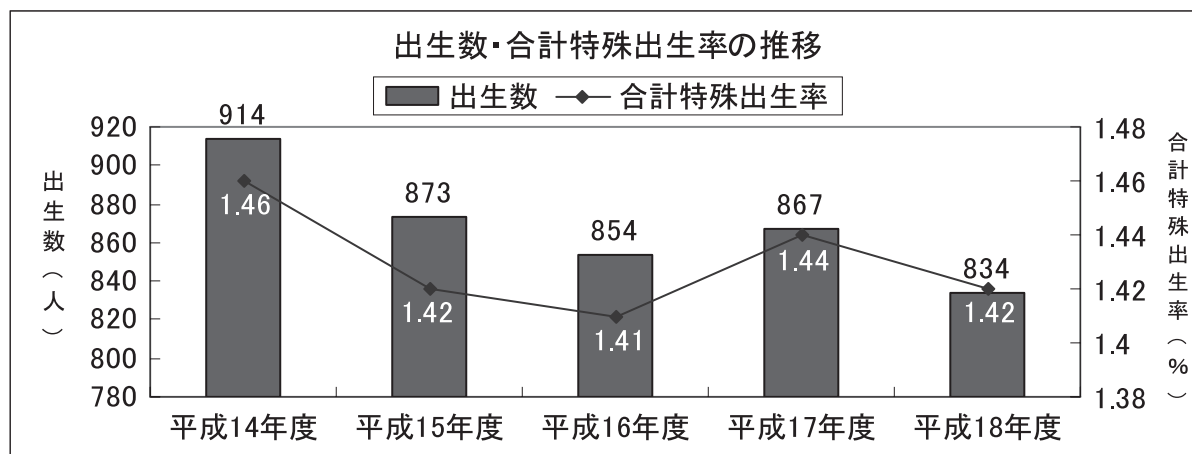
資料：市福祉課 各年3月31日現在

## 5 子どもの現況

### (1) 出生数・合計特殊出生率※の推移

少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化、高度情報化、女性の社会進出等、家族を取り巻く環境は大きく変化しています。

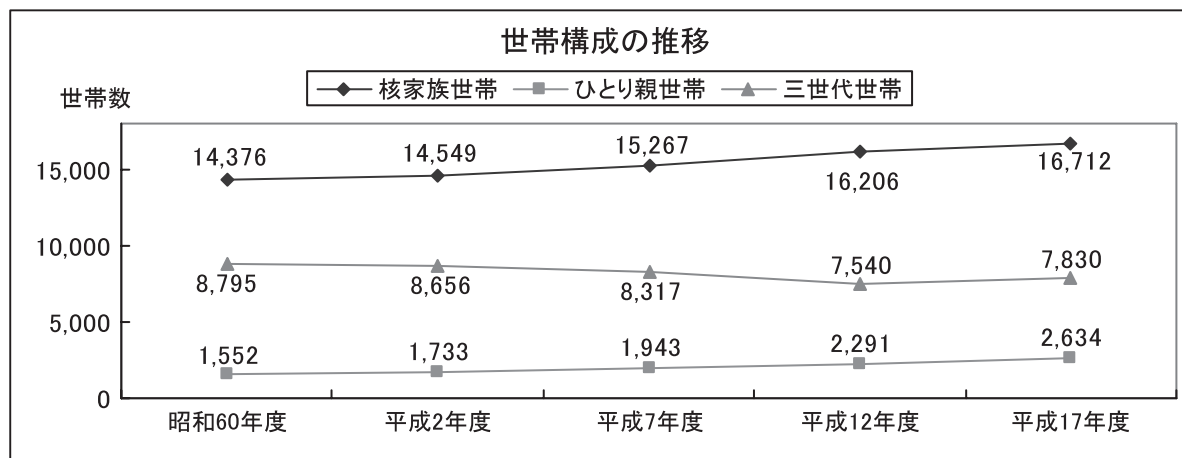
出生数及び合計特殊出生率は平成17年度増加しましたが、その後、平成18年度には、出生数で33人、合計特殊出生率も0.2ポイント減少しています。



資料：平成19年福祉保健年報 各年度3月31日現在

### (2) 世帯構成の推移

平成17年度の国勢調査における世帯構成は、核家族世帯が16,712世帯で最も多く、次いで三世帯世帯の7,830世帯となっています。昭和60年度からの推移をみると、核家族世帯とひとり親世帯の増加が顕著です。また、三世帯世帯数は減少傾向にありましたが、平成12年度から平成17年度の間では290世帯増加しています。



資料：国勢調査 各年度10月1日現在

※ 合計特殊出生率…15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計した指標。1人の女性が平均して一生の間に何人の子どもを産むかを表したものの。